

第3節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査

1. モニュメント設置工事に伴う予備発掘調査

調査地区 小串構内総合研究棟南東側空閑地

調査面積 約6.25m²

調査期間 平成18年6月4日

調査担当 横山成己

調査結果 小串構内総合研究棟南面の芝生公園にモニュメントが設置される計画を受け、立会調査を実施する運びとなった。掘削工事は1辺2.5m角、現地表下0.95mの規模である。

当該地周辺では、平成14年に総合研究棟新営に伴う試掘調査^{註1}が実施されている。今回調査地は、総合研究棟建設計画地の四隅に設けられた試掘調査区の南東側トレンチ（Dトレンチ：約100m²）のさらに南東に位置する。Dトレンチで確認された基本層序は、現地表下約1mまでが造成土であり、以下に層厚約0.15mの旧耕土、約0.25mの暗黄褐色粘土、約0.2mの暗灰黄色粘質砂、約0.35mの暗灰黄色粗砂、0.25m以上の青黄褐色硬シルトである。調査者によると、旧耕土からは磁器・陶器・土師器などの遺物が出土しており、旧耕土直下の粘土は無遺物層、下位の砂層からは縄文土器・土師器・須恵器・瓦質土器・土師質土器・磁器など多様な遺物が出土したと報告されている。また所属層位は不明であるが、山口県の古代製塩土器である六連式土器も出土している。

以上の調査成果から、当開発工事は掘削深度が現地表下約0.95mであり、磁器・陶器・土師器を包含する旧耕土に到達する可能性を排除できないものと判断し、掘削時の立会を行った。

調査の結果、掘削は造成土内に止まるものであり、地下の埋蔵文化財に影響が及ぶものではないことが確認された。

[註]

1) 村田裕一（2003）「小串総合研究棟新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会資料（2003年5月29日開催）



図 61 調査区位置図



写真 145 調査区土層断面（南東から）